

令和元年度 学習定着度に関する調査結果について

<1 学年>

国語、数学ともに福岡市の平均と比べ同程度である。

具体的には以下のようなものである。

【国語】（福岡市の平均と比較して）

○観点別得点率では、「書く能力」「言語についての知識・理解・技能」「話す・聞く能力」「読む能力」の全ての観点において、同程度である。

○大問別得点率では、「話すこと・聞くこと・読むこと（説明的文章）」「読むこと（随筆）」「書くこと」の全ての大問において、同程度である。

[課題と今後の取組について]

- 「話す、聞く能力」は、スピーチなどの機会を数多く設定し、力をつけていくことが必要である。2学期末と3学期の初めに、表現活動とスピーチのコンクールを行い学年生徒には意識付けがなされたと考える。今後も継続して取り組んでいきたい。
- 「書く能力」は、伝えたい事柄について、根拠を明確にして書けるようになることに課題があると考え。今後は、条件作文に取り組む機会を設けていきたい。
- 「読む能力」は、文章の展開に即して、情報の整理と内容の把握ができる指導が必要である。中心文をとらえる読み取りの力や、資料やグラフなどを読み取り、そこから思考判断し、文章の読解に役立てていく力も必要とされる。また、文学作品では登場人物の心情を理解していく力も必要となる。国語科の授業の中で、「めあて」を明らかにし、つけたい力を育てていきたい。
- 「言語についての知識・理解・技能」については、主語、述語の関係が不明瞭だったり、助詞の使い方に誤りがあったりして、自分の考えを的確に相手に伝えることができない文章が見受けられる。今後の作文指導の中で、文法を意識した指導を進めていく。

【数学】（福岡市の平均と比較して）

○観点別得点率では、「数学的な見方や考え方」「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」の全ての観点において、同程度である。

○大問別得点率では、「各領域の小問題」「正の数・負の数」「比例式」「変化と対応」「資料の整理」の全ての大問において、同程度である。

[課題と今後の取組について]

- 観点別得点率から、「数量や図形などについての知識・理解」を定着させる必要がある。授業内での小テスト等でくり返し練習を行っていく。
- 大問題得点率において、「比例式」の習得が課題であり、定期考査に毎回出題したり、学習プリントを活用したりして、機会あるごとに比例式に触れるように仕組んでいく。

<2 学年>

国語、数学ともに福岡市の平均と比べ同程度である。

具体的には以下のようなものである。

【国語】（福岡市の平均と比較して）

- 観点別得点率では、「読む能力」「言語についての知識・理解・技能」はやや上回っている。「話す・聞く能力」は同程度である。「書く能力」は努力を要する。
- 大問別得点率では、「読むこと（随筆）」はやや上回っている。「読むこと（説明的文章）」「書くこと（活用型）」は、同程度であり、「聞くこと（作文）」については、努力を要する。

〔課題と今後の取組について〕

- 「話す・聞く能力」を養うために、スピーチやプレゼンテーションなどの機会を増やす。また、授業中の積極的な発言を評価して、話すことへの意欲につなげる。
- 「書く能力」を養うために、単元ごとに、課題に対しての条件作文に取り組む時間を設定する。
- 「読む能力」を養うために、多くの説明文に触れさせたり、短い文章を読んで要約文を書かさせたりするなどの機会を増やす。スモールステップで段階的に取り組む。
- 「言語についての知識・理解・技能」については、語彙力の不足が見られるので、様々なジャンルの文章を読む機会を増やすとともに、作品の紹介や読書量を増やす取り組みを行う。

【数学】（福岡市の平均と比較して）

- 観点別得点率では、「数学的な技能」「数量や図形などについての知識・理解」「数学的な見方や考え方」の全ての観点において、同程度である。
- 大問別得点率では、「各領域の小問題」「連立方程式」「資料の活用」「一次関数」「図形の調べ方」「空間図形」「文字式の利用」の全ての大問において、同程度である。

〔課題と今後の取組について〕

- 観点別得点率から、技能面の向上と思考力を養う必要がある。日頃から「数学的な技能」を問う問題に触れる機会を増やしていく。計算力コンクール等を行う。証明問題を穴埋めプリントで慣れさせる。角や辺の長さをもとめる図形問題や関数領域での式を作ったり、式の値を使って解く計算問題を時間をとって解かせる。
- 大問題得点率において、「各領域の小問題」の解法をしっかりと押さえることが課題である。定期考査に出題したり、小グループによる学び合い学習に学習プリントを活用したりして、機会あるごとに各領域の小問題に触れるように仕組んでいく。